

避難・疎開受入の促進に向けて

課題：遠隔地避難が進まないのは一

- 遠隔地は宗教施設ということで敬遠される（と行政がいう） 勧誘される不安
- 避難者の不安
 - 地元を離れる不安
 - 自分だけ避難するうしろめたさ
 - 元の「村」に戻れないのではないかという不安
- 地元密着職業で離れられない

避難所情報をどう伝達する？

■ 地元情報ルートを使う

宗教者のネットワークを使って、地元の宗教者を通じて被災地の役所へチラシを届けるといい。

行政から既成の回覧ルートを使って情報拡散する

マスコミ関係者からのアドバイス

- 宗教が違っていてもよいと表明
- 宗教的活動を明らかにしたチラシを作る
 - 宗教的サービスは提供するが、公益性を尊重することをアピールする
- 一工夫して記事を書いてもらう

宗教施設に避難するメリットはある

- 宗派は違ってもお参りをする場があるのはよい
- 期間が限定されないのがよい
- お骨と一緒に避難できる

これから

- 妊産婦・乳幼児の避難はこれから
- 「東京里帰りプロジェクト」のようにコーディネートするところと連携する
- 津波と原発をわけて考えてゆく必要あり
福島を遠隔地は考える
- いつ自分のところが同様の状況になるかわからない。他人事ではない。
 - 備蓄も含めて考えてゆくことは大切